

## 廃炉・汚染水対策チーム会合 第7回事務局会議 議事概要

日時: 平成26年6月27日(金) 10:00~12:05

場所: 東京電力 本店 本館11階1101・1102会議室／福島第二免震棟1階会議室  
／福島第二免震棟3階会議室／福島第一免震棟2階総務会議室  
／福島復興本社(福島分室)

出席者:

井上顧問(電中研)、

糟谷対策監、吉田審議官、新川室長(資工庁)、  
田中審議官(文科省)、得津室長(厚労省)、金城室長(規制庁)、

森山理事(JAEA)、金山理事代理(産総研)、鈴木専務理事(IRID)、  
横山常務理事(電中研)、畠澤事業部長代理(東芝)、丸技監(日立)、  
姉川主幹技師(三菱重工)、姉川常務、太田執行役員(東電) 他

議事:

### 1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があり、現状について関係者で情報を共有した。

### 2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力及び資源エネルギー庁、文部科学省、JAEAより、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
  - ① 2号機PCV内監視計器最設置の作業結果(東電)
  - ② 凍土遮水壁工程表・削孔実績(東電)
  - ③ 多核種除去設備 第2回C系統腐食対策有効性確認結果(東電)
  - ④ H4エリアタンク漏れい水の抑制対策(土壌中ストロンチウム捕集)(東電)
  - ⑤ 地下水バイパス運転状況報告(東電)
  - ⑥ 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況(東電)
  - ⑦ 港湾内海底土被覆工事の工事概要(東電)
  - ⑧ 暫定事務棟I期工事(6月末完成)の進捗状況(東電)
  - ⑨ 1号機R/Bカバーの解体(東電)
  - ⑩ 3号機 オペフロ除染・遮へい作業の進捗(東電)
  - ⑪ 4号機及び共用プール 天井クレーン点検(東電)
  - ⑫ 1号機 S/C上部調査装置・トーラス室壁面調査装置実証試験 調査結果(続報)(東電)
  - ⑬ 2号機 トーラス室壁面調査装置実証試験の実施(東電)
  - ⑭ 放射性物質の分析・研究施設の立地場所に関する候補地の評価結果(JAEA)
  - ⑮ 廃止措置等研究開発の加速プラン(文科省)
  - ⑯ 廃炉・汚染水対策福島評議会(第3回)(資工庁)

- ⑰ 汚染水他作事業の採択者決定(資工庁)
- ⑱ 廃炉対策事業(燃料デブリ取出し代替工法等)公募の開始(資工庁)

・ 主なやりとりは以下の通り

<多核種除去設備 第2回C系統腐食対策有効性確認結果>

- Q. 今回、追加で発見された腐食は対策が施されていないためだが、CFFのトラブルについては、前段の鉄共沈のCFFについても対策品としているか。(金城室長)
- A. 現時点では対策品としていないが、現在部品を手配中であり、夏頃には交換する予定。(東電)

<地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況>

- Q. 下部透水層においてトリチウムが検出されているが、どのように分析・評価しているか。凍土壁の工事に影響は無いのか。(井上顧問)
- A. 海側遮水壁の先行削孔により、被圧地下水位と不圧地下水位が逆転したものと推定される。トリチウムの濃度は低く、生物学的に影響があるものでは無い。今後の凍土壁のボーリング作業でも下部透水層まで掘削するものがあるので、状況を注視する。(東電)

- Q. シルトフェンスの効果をどのように評価しているか。(井上顧問)
- A. 既設のシルトフェンスは完全に密閉しているものではないので、大きな効果はないと考えていたが思ったよりは効果があった。(東電)
- Q. ストロンチウム吸着材をシルトフェンスに付けることは出来るか。(井上顧問)
- A. 検討中である。ただし、海水中であるので放射性ストロンチウムが取れる割合は極めて低いものと考えている。(東電)

<港湾内海底土被覆工事の工事概要>

- Q. 浮泥の性質について、ストロンチウム、セシウム等の放射性物質は含まれているのか。今後発生する可能性はあるのか。(井上顧問)
- A. 浮泥は3cm程度の厚みしかないので、浮泥のみの分析は困難である。過去の調査で浮泥を含む海底土の分析を実施している。今後、被覆後に浮泥が発生するかはモニタリングしていくが、まずは汚染された海底土を外に出さないため、港湾内海底土の被覆を優先する。(東電)

<1号機 R/Bカバーの解体>

- Q. 1号機カバー解体作業中にダストモニタの警報が出た際に、周辺の凍土壁等の作業員に対しての避難訓練・避難計画は検討しているのか。(金城室長)
- A. 全面マスク省略エリアのダスト濃度の上昇が確認された場合は、全面マスク着用指示を構内一斉放送にて行う。構内の避難訓練の実施状況については確認する。(東電)

<3号機 オペフロ除染・遮へい作業の進捗>

- Q. 3号機オペフロ除染がうまくいかず当初工程より遅れた場合、今後の工程にどのような影響を与えるか。(糟谷対策監)

- A. 燃料プールの燃料取り出し装置設置のためにはある程度の除染が必要であり、取り出し装置設置以降のプール燃料の取り出し工程が遅れることとなる。プール燃料取り出し開始は2015年度上半期を予定しているが、現状遅れている。なお、燃料の取り出し工程が遅れる場合、使用するキャスクの組み合わせに柔軟性が出てくる。(東電)

<2号機 トーラス室壁面調査装置実証試験の実施>

- Q. 調査装置自身の起こす水の流れにより、貫通部の流速を確認できないのではないか。(新川室長)
- A. 工場にて実施したモックアップ試験において、流速を確認できている。(東電)

<放射性物質の分析・研究施設の立地場所に関する候補地の評価結果>

- C. 取扱う核物質の形態・量により、安全上確認すべき事項が異なるので、十分なリードタイムを持って対応頂きたい。また、東電の敷地内に設置するので、東電の管理責任が発生する。JAEAと東電の役割分担を明確にして頂きたい。(金城室長)
- C. 様々な施設が計画されている。同様な施設が出来ないよう、役割分担を明確にしオーバーラップが無いよう、何処かでしっかりグリップ頂きたい。(井上顧問)
- C. 報告書の内容自体に特に問題の無いことを確認した。(新川室長)

3. その他

- ・ 次回は、7月31日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。(新川室長)

以上